

令和6年7月

高松市丸の内2-5

四国電気安全委員会

電気使用安全月間の実施について

拝啓 盛夏の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、電気安全の確保に格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、電気は私たちの生活のさまざまな場面で利用されておりますが、その取扱いを誤ると大変な事故につながることがあります。

全国大では、経済産業省主唱のもとに、高温多湿のため感電や電気事故が発生しやすい8月を「電気使用安全月間」と定め、電気関係諸団体が協力して、電気使用の安全運動を統一的に展開することになり、本年も来る8月1日から31日までの間、電気使用安全月間行事が実施されます。

つきましては、当委員会におきましても中国四国産業保安監督部四国支部のご指導のもと、電気安全知識の普及啓発、電気設備の保安確保等の電気使用安全運動を効果的に展開いたしたいと考えますので、皆様方の一層のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬 具

令和6年7月

四国電気安全委員会
四国電力送配電株式会社

索道と送・配電線との接触事故防止のお願いについて

拝啓 盛夏の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、作業現場等における電気事故防止につきましては、常々格別のご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

索道と送・配電線が接触すると、多数のご家庭等の電気が停電する事故となります。とくに、電気供給の動脈的な役割をもっている送電線での事故は、広範囲の停電を招き、一般のご家庭や工場はもとより、人命をあずかる病院などに大きな迷惑をかける場合があります。

また、索道と送・配電線の接触事故は、同時に、索道の運転者や作業者に感電災害をもたらすこともあります。

貴所におかれましては、運転者や作業者の皆さんにこのような事故を起こさないよう周知徹底ならびにご指導をいただいているとは存じますが、これらの事情をご賢察のうえ、再度ご周知およびご指導をいただき、事故防止についてご協力を賜りたくお願い申し上げます。

なお、送・配電線と接近または交さして索道を架設される場合、とくに交さする場合には、電線との離隔が確保されているようでも、回転ワイヤーの樹木接触や運搬材の脱落等によるワイヤーの跳上り、および運搬荷重の移動によるワイヤーたるみの変位により、重大事故に至る場合があります。

このような事故を未然に防止するため、送・配電線と接近または交さして索道を架設、運転される場合は、事前に四国電力送配電（株）にご連絡下さるようお願い致します。

四国電力送配電（株）では、必要に応じて立会等の対応をいたしますので、ご協力の程お願い申し上げます。

敬 具

（参考）四国電力送配電（株）ホームページURL

・送電線付近での工事

https://www.yonden.co.jp/nw/contact_case/power_line/index.html

・配電線付近での工事

https://www.yonden.co.jp/nw/contact_case/distribution_line/index.html

感電および感電以外の死傷事故の概要

1. 感電および感電以外の死傷事故の推移 [平成22～令和5年度：件]

種別＼年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5
感電事故	1(0)	5(2)	1(0)	3(0)	2(0)	3(1)	2(0)	1(0)	0(0)	0(0)	2(1)	1(0)	5(1)	0(0)
感電以外事故	1(0)	2(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(0)	1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	
合 計	2(0)	7(2)	1(0)	4(0)	2(0)	3(1)	2(0)	1(0)	0(0)	2(0)	3(1)	2(0)	5(1)	0(0)

注：()内数字は、死亡事故再掲

2. 感電および感電以外の死傷事故の概要

令和5年度

区分	事 故 の 状 況	負傷の程度	電気工作物	発生場所	年 月	原 因	電 壓
感電事故	発生なし						
感電以外死傷事故	発生なし						

(参考) 令和4年度

区分	事 故 の 状 況	負傷の程度	電気工作物	発生場所	年 月	原 因	電 壓
感電事故 作業者	高圧ケーブル引込工事中、作業者が、作業指示のない盤内に立入って状況確認を行つたところ、充電部に接触し、感電負傷した。	入院	自家用	愛媛県	R4.7	被害者の過失	6.6kV
感電事故 公 衆	作業員がバックホウで整地作業中、上空の高圧架空電線を誤って引っ掛け絶縁電線を損傷、バケットに上り電線を確認しようとして感電し、転落負傷した。	長期間入院	事業用	愛媛県	R4.7	被害者の過失	6.6kV
感電事故 作業者	高圧設備更新作業後のテストを行うため、盤内で予定外の結線作業を行っていたところ、充電部に接触し、感電負傷した。	入院	自家用	愛媛県	R4.7	作業方法不良	3.3kV
感電事故 作業者	設備異常のランプが点灯したため、作業員が主任技術者の指示なく、キューピクル内に体を入れて調査を行っていたところ、充電部に接触し、感電負傷した。	入院	自家用	愛媛県	R4.8	被害者の過失 工具防具不良	6.6kV
感電事故 作業者	電気設備の点検等作業（単独）において、作業者が高圧盤充電部に接触し、感電死亡した。	死亡	自家用	非公表	非公表	その他	6.6kV
感電以外死傷事故	発生なし						

令和6年7月

四国電気安全委員会
四国電力送配電株式会社

電気工事作業員の感電等事故防止のお願いについて

拝啓 盛夏の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当安全委員会の事業に格別のご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、皆様方の安全の確保につきましては、四国電力送配電(株)および四国電気工事組合連合会においても事故防止対策の徹底をはかっているところであります。事故防止に一層のご留意を賜りますようお願い申し上げます。とくに夏季は感電事故が発生しやすいことから、経済産業省の主唱により8月を「電気使用安全月間」と定め、関係各団体が連携協力して集中的に安全運動を展開いたします。

つきましては、「感電事故および墜落事故を起こさないようにするため」をお届けいたしますので、現場作業員への周知徹底方よろしくお願い申し上げます。

なお、皆様方には安全電化配線のようやく、漏電しゃ断器(欠相保護装置付)、および感震ブレーカーの取付推進を通じ、電気安全と電気知識の普及啓発にご尽力をいただく中、自動販売機、プールなどの電気設備による感電事故およびタコ足配線などによる火災事故を防止するため、これらの電気工事の施工にあたっては、電気設備技術基準にもとづく適正な施工とお客様へのPRについて、よろしくご協力下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

敬具

感電事故および墜落事故を起こさないようにするため

1. 防護具の使用を確実に行いましょう。

防護具、工具等が不足した場合に、そのまま間に合わせで工事を行うことは、決してしてはならない危険な行為です。そのためには出発前および作業後の点検整備を確実に行うとともに、充電電路に近接する場所において作業を行う場合は、防護具の使用を習慣化しましょう。

また、防護具は、損傷しないよう丁寧に取扱うとともに、6カ月ごとに試験をして、性能を確認しておきましょう。

2. 作業指揮・監視を徹底しましょう。

2名以上で班作業を行うときは、必ず作業指揮者を指名し、規律ある班作業を進めることができます。災害防止上とくに重要であります。

作業指揮者は、作業員を掌握指揮監督し、安全作業遂行に責任をもつものであり、技術、知識、指導力を有し、班員との協調をはかりながら自己の信念にもとづく毅然たる態度で指揮し、班員の能力を結集して作業にあたる必要があります。

また、作業指揮者は、当日の作業内容、場所、作業範囲、離隔範囲、工程および安全上の留意点等を、作業員全員に確実に周知するとともに、作業員の健康状態、熟練度、年齢等を配慮して作業内容に応じた適任者を適所に配置するよう努めましょう。

とくに未熟練者・高齢者等については、適切な配置をはかることが必要です。

過去の事故例では、作業指揮者の指揮監督が十分でなかったときに多く発生しており、作業指揮者自身が災害を受けた事故例もみられます。

3. 高所作業の場合には、墜落制止用器具を確実に使用しましょう。

高所作業では作業者は、常に墜落の危険にさらされているため、墜落制止用器具を確実に使用するとともに、昇降柱時等に胴綱をかけかえる場合は、必ずランヤードを使用しなければなりません。また、ランヤードをかける個所の異状の有無をよく確かめることも重要です。

なお、支持物倒壊による墜落の危険もあるので、昇柱前における電柱の地際点検についても習慣化しましょう。

(フルハーネス型の墜落制止用器具について)

労働安全衛生規則の改正に伴い、2022年1月2日からフルハーネス型の墜落制止用器具を使用することが義務化されています。

また、フルハーネス型の墜落制止用器具を用いて作業を行う場合は、事前に安全衛生特別教育を受けなければなりません。

4. 安全教育、訓練には進んで参加しましょう。

安全に作業を進めるための知識、技術は何にも増して重要な財産であります。電気工事組合等が行う安全教育、訓練には、進んで参加しましょう。

皆様のお店から不幸な災害をださないために!

電気工事作業中における感電・墜落事故例

	事故の状況	被災の程度
事例. 1	ボーリング削孔作業に使用する高圧ポンプ用電源台車の分電盤への、動力線とアース線のつなぎ込み作業中、誤ってアース線と一次側活動線をモンキーレンチで短絡させ、負傷した。	熱傷
事例. 2	漏電個所を特定するため、低圧配線の切り分け作業中、電線をコネクターに差し込むとした際、汗で濡れた作業用手袋の左手小指内側が、電線の先端部に接触し感電した。	感電負傷
事例. 3	特高変電所内機器の清掃作業のため、気中終端接続箱の架台上でブッシングにウェスを近づけたところ、ケーブルの残留電荷により感電し、側面に飛ばされ床に落下した。	感電負傷
事例. 4	充電状態のキューピクルに新たな高圧ケーブルを引き込む準備作業中、保護具を着用せずキューピクル内に入り、高圧充電部に接触・感電した。	感電負傷
事例. 5	活線状態で動力ブレーカー取替作業中、不注意で電動ドライバーを銅バーに接触させ発生したアークが3相短絡に発展し火傷を負った。	熱傷

令和6年度 四国地区キャッチフレーズ

危ないよ 触るな つかむな 切れた電線

令和6年7月

四国電気安全委員会
四国電力送配電株式会社

建設現場作業員の感電事故防止のお願いについて

拝啓 盛夏の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、土木建築現場等における感電事故の防止につきましては、常々関係者のご指導やP Rなど格別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

当委員会では、日頃から、電気安全思想の普及に努めておりますが、近年の事故例をみると、建設現場作業員の感電事故防止について、繰り返し周知徹底することが重要であると考えております。

とくに夏季は、皮膚の発汗や身体の露出等により感電の危険性が高まり、感電死傷事故が発生しやすいことから、経済産業省の主唱により、8月を「電気使用安全月間」と定め、関係各団体が相互に連携協力して集中的に安全運動を展開いたします。

つきましては、「感電事故を起こさないようにするにはどうすればよいか」をお届けいたしますので、趣旨をご了承いただき、看板・塗装業者、足場設置業者、建築電気設備点検業者等の関連業者も含めた現場作業員の感電事故防止の徹底に、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

感電事故を起こさないようにするにはどうすればよいか

1. 受電設備に立ち入る場合には電気主任技術者に連絡しましょう。電線に近接する場合には、四国電力送配電(株)の『建設用防護管取付サービス』へ申込するなど安全措置を行いましょう。

建設現場では、工事の進捗に伴い状況変化が著しく、作業足場や建造物等と電線との離隔が少ない場合や、離隔がある場合でも移動式クレーン、くい打機等の作業機械やワイヤーロープ、または金属性の建築材料等が誤って電線に接近、もしくは接触することにより感電事故が発生しています。電線の近くで建設工事をする場合は、早期に四国電力送配電(株)の『建設用防護管取付サービス』へ申込するなど安全措置を確実に行いましょう。

なお、高圧受電室等には絶対に立入らないようにしてください。

また、特別高圧線路（主に鉄塔によるもの）は、電線に接近するだけでも事故になる恐れがありますので、十分ご注意下さい。（安全距離：66kV-4m以上、187kV-6m以上）

建設用防護管取付サービス

四国電力送配電(株)の電線等に近接して工事を行う際の目印として建設用防護管や防護シート等の取付と撤去を行うサービス。本サービスの概要やお申込み等の詳細については、以下のURLより四国電力送配電(株)のホームページをご確認ください。

URL : <https://www.yonden.co.jp/nw/bougokan/index.html>

2. 電気機械器具を使用する電気配線（回路）には漏電しゃ断器を取付けましょう。

建設現場では、ミキサー、リフト、コンベヤー、排水ポンプ等の電動機やその他の電動工具、保安灯などの劣化による漏電によって感電死亡した事例もあります。建設現場の配線には、漏電したとき瞬時に電流を切る漏電しゃ断器（欠相保護装置付）を取付け、安全に作業をしましょう。

建設現場作業員の感電事故例

	事故の状況	被災の程度
事例. 1	ビル壁面にガス管取付のため、梯子をかけ屋上にある受電設備に近接して作業しようとした時、頭部が高圧ケーブルヘッド付近に触れて感電し、梯子から墜落し負傷した。	重傷
事例. 2	電気室窓外側に取付された金網塗装のため、内側から塗装しようとしてフェンスを乗り越えて無断で電気室に進入し窓を開けようとした時、背中が動力変圧器の高圧側開閉器に触れて短絡し、アークにより負傷した。	軽傷
事例. 3	ビル外壁塗装の足場組立作業のため、隣のビル屋上に設置しているフレーム組受電設備に近接して作業している時、左手が高圧電力用ヒューズに触れて感電し、足をすべらせ道路に墜落し負傷した。	重傷
事例. 4	ビル外壁塗装工事用足場の組立作業中、作業員が隣接した高圧電線に接触し感電、バランスを失ない地上に墜落し負傷した。	重傷
事例. 5	工業用水処理施設の工事中、クレーンのブームを旋回中にワイヤーが特別高圧線に接触し、吊荷を持っていた玉掛け作業者が感電負傷した。	重傷
事例. 6	スレート屋根葺き替え作業中、クレーンのブームが特別高圧線に接触し、荷台上で作業していた玉掛け作業者が感電負傷した。	重傷
事例. 7	建物屋上へ型枠材料をクレーンで吊り上げ中、ワイヤーが特別高圧線に接触し、吊荷を持っていた玉掛け作業員が感電負傷した。	重傷
事例. 8	送風ファン（3相200V）の電源ケーブルの素人による接続工事のため、接続不良が起り漏電していた個所に触れて感電した。	死亡

令和6年度 四国地区キャッチフレーズ

危ないよ 触るな つかむな 切れた電線

あなたが防ぐ

電気事故



電気安全についてのお問い合わせはもよりの
四国電力送配電(株)支社・事業所・サービス
センターへどうぞ

★電気器具をお使いのときは

- うっかりぬれ手でさわらないように



- 電気設備の不良箇所はすぐ修理を



- 洗たく機などにはアース線を



- タコ足配線はしないように



- 電気器具は^{PE}マークまたは^{PS-E}マークのついた優良器具を

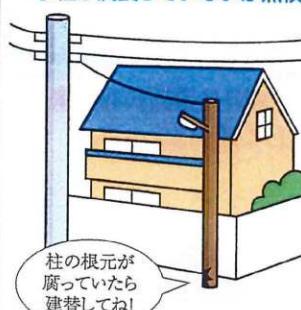


- 漏電しや断器を取り付けて安全な電気の使用を



★屋外ではこんなことに注意

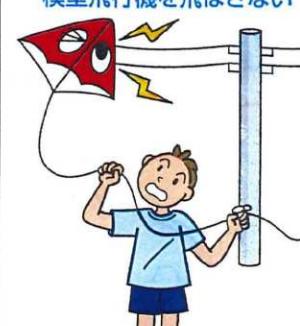
- 街路灯や引込線を取付した小柱が腐食していないか点検を



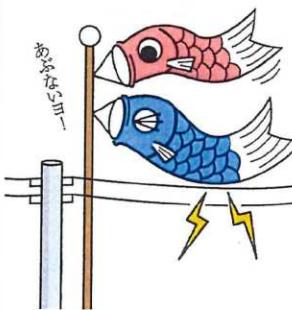
- 釣竿は電線に近づけない



- 電線の近くで凧上げや模型飛行機を飛ばさない



- こいのぼりは電線から十分はなれた場所へ



- 変電所の中では絶対にはいらない



- 切れてたれ下がった電線には絶対にさわらず
四国電力送配電へ連絡する



★「グラッ」と地震が発生したら

- 使用中の電熱器具のスイッチを切り、コンセントからプラグを抜く



- 避難するときは、しや断器を「切」にする

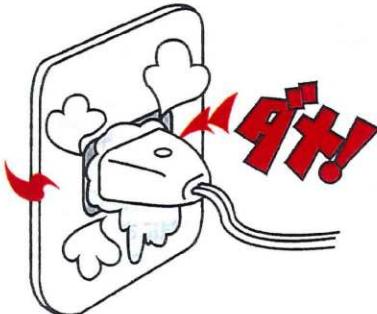


- 避難先から戻って、電気器具を使用するときは、ガス漏れのないことや器具の安全を確認する



★ビニールコードの取り扱いには 十分注意しましょう

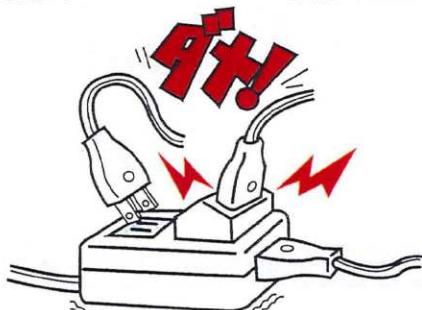
ビニールコードを傷んだまま使ったり、使い方が悪いと感電や火災の原因になります。
傷んだり、古いビニールコードは早めに取り替えし、正しく使いましょう。



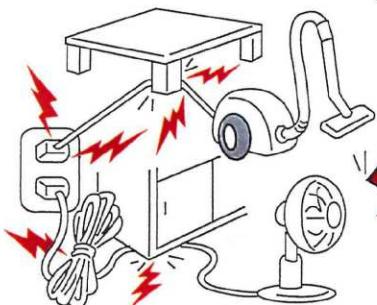
●ホコリや湿気は取り除く



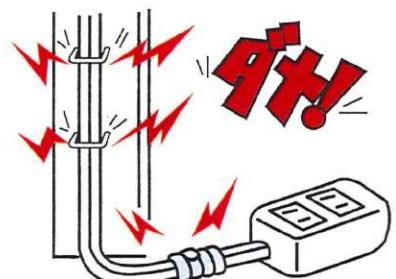
●傷んだものは使わない



●タコ足配線はしない



●物の下に敷いたり、束ねたり、
引っ張ったりしない



●金具止めや
コードとコードは直接接続しない

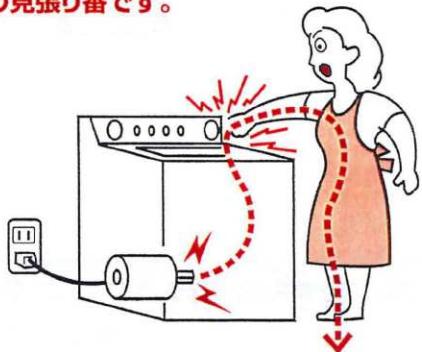
★漏電しや断器を取り付けましょう

漏電しや断器は電気の見張り番です。

漏電とは、電気が屋内配線や電気機器の電気回路以外の個所を流れることをいいます。

電気機器が古くなったり、絶縁性能が悪くなったり箇所やビニールコードの被覆が傷んだ箇所などから漏電が起こります。漏電していることに気づかず使っていると感電や火災をまねきます。

この漏電を素早くキャッチして、自動的に電気を止める働きをするのが漏電しや断器です。



漏電しや断器を取り付けていないお宅は、漏電しや断器を取り付けましょう。

お宅の玄関や台所などにある分電盤（電気の本スイッチ）をごらんになって下さい。まだ、漏電しや断器が取り付けられていない場合には、ぜひ漏電しや断器を取り付け、安心して電気を使いましょう。

なお、漏電しや断器は過電流保護、単三中性線欠相保護機能付のものを取り付けされるようお願いいたします。取り付け工事は、電気工事店に依頼して下さい。

もしも電気が切れた場合は、次の手順で点検して下さい。

- まず、ご近所を見て下さい。
- ご近所の電気がついている場合、分電盤の漏電しや断器が「切」になっていないか調べて下さい。
- 「切」になっている場合、次の手順で分電盤にあるスイッチを「入」「切」して下さい。
 - 配線用しや断器（MCCB）をすべて「切」にする。
 - 漏電しや断器を「入」にする。
●リセットボタンがある場合は、リセットボタンを押してから「入」にする。
 - 半切れの状態の場合は、一度、完全に「切」（スイッチを下側に下げる）にしてから「入」にする。
- MCCBを1つずつ「入」していく。
●「入」にした時、再び漏電しや断器が「切」になるMCCBがあれば、その回路は漏電か電気の使いすぎです。そのMCCBを「切」にしたまま、漏電しや断器を再度「入」にした後、残りのMCCBを「入」にして下さい。
- MCCBを「切」にしたままの回路は、電気工事店で点検・修理してもらいましょう。
- 雷が鳴っている時に漏電しや断器が働いた場合には、MCCBを全て「入」にできることがあります。これは雷による誤動作です。

